

15. チューリップ

・殺菌剤

| FRACコード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---------|----------|------------------|--------------|------|----|
| 29 | フロンサイド粉剤 | 全面土壌混和 | 植付前 | 1回 | |
| M3+1 | ホームイ水和剤 | 30分間球根浸漬 球根粉衣 | 植付前又は 貯蔵前 | 1回 | |
| 14 | リゾレックス粉剤 | 土壌混和 | 植付時 | 1回 | |

・殺菌剤（参考農薬）

| FRACコード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---------|-------------|----------------------|----------------|------|----|
| M4 | オーソサイド水和剤80 | 球根浸漬 | 球根掘取時 及び植付時 | 8回以内 | |
| 3 | スポルタック乳剤 | 15分間球根浸漬 30分間球根浸漬 | 植付前 | 1回 | |
| M5 | ダコニール1000 | 散布 | 発病前～発 病初期 | 6回以内 | |
| 1 | トップジンM水和剤 | 球根粉衣 | 植付前又は 貯蔵前 | 1回 | |
| 3 | トリフミン水和剤 | 球根粉衣 | 植付前 | 1回 | |
| M7+19 | ポリベリン水和剤 | 散布 | 発病初期 | 8回以内 | |
| 1+M3 | ラビライト水和剤 | 散布 | - | 5回以内 | |

・殺虫剤

| IRACコード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---------|--------|------|------|------|----------|
| 1 | マラソン乳剤 | 散布 | 発生初期 | 6回以内 | 花き類・観葉植物 |

・殺虫剤（参考農薬）

| IRACコード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---------|----------|------|------|------|---|
| 1 | オルトラン粒剤 | 株元散布 | 発生初期 | 5回以内 | 花き類・観葉植物（きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウム、たであいを除く） |
| | オルトラン水和剤 | 散布 | 発生初期 | 5回以内 | 花き類・観葉植物 |

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
 注4) 蚕毒・魚毒については、「28. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

| 病害虫名 | 防除時期 | 防除方法 | 注意事項 |
|--------------|--------------|---|---------------------------------|
| 灰色かび病 (F) | 3月～6月 | 1. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 [参考農薬] 1. ラビライト水和剤 500～800 倍液を散布する。 | 1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため同一系統薬剤の連用は避ける。 |
| 青かび病 (F) | 球根掘取時 植付前 | [参考農薬] 1. オーソサイド水和剤80の800～1,000 倍液に球根掘取時または植付時に浸漬する。 | |
| 白絹病 (F) | 生育期間 | 1. 発病株は、発見次第直ちに抜き取り処分する。 2. 球根はよく乾燥させてから貯蔵する。 | |

| 病害虫名 | 防除時期 | 防 除 方 法 | 注 意 事 項 |
|---|----------------|--|---|
| 褐色斑点病 (F) | 生 育 期 間 | 1. 種球根は健全球を厳選する。 2. 発病株は萌芽時から徹底して抜き取り伝染源の除去に努める。 3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 [参考農薬] 1. ラビライト水和剤 500～800 倍液、ポリペリン水和剤、ダコニール 1 0 0 0 の 1,000 倍液のいずれかを散布する。 | 1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。 |
| 球根腐敗病 (F) | 植 付 前 貯 蔵 前 | 1. 種球根は健全球を厳選する。 2. 発病株は萌芽時から徹底して抜き取り、伝染源の除去に努める。 3. 収穫した球根は傷を付けないように選別・調整し、送風乾燥にて速やかに乾燥し、風通しの良い冷暗所で貯蔵する。 4. 球根に対する薬剤処理は、植付前にホームイ水和剤 200 倍液に 30 分間浸漬処理するか球根重量の 1.0%を粉衣処理する。 [参考農薬] 1. 植付前に球根をスポルタック乳剤 100 倍液 15 分間浸漬か 200 倍液 30 分間浸漬、トップジンM水和剤を球根重量の 0.1%粉衣処理、トリフミン水和剤を球根重量の 0.2%粉衣処理のいずれかを行う。 2. 貯蔵前はトップジンM水和剤の球根重量の 0.1%を粉衣処理する。 | 1. 消毒液の残液については、農業廃液処理装置を用いて処理するか、産業廃棄物処理業者に処分を依頼する等適正に処理する（特別指導事項参照）。 |
| 葉 腐 病 (F) | 植 付 前 | 1. ほ場の排水性向上に努める。 2. 多発地では連作しない。 3. 発病株は抜き取り、ほ場外に埋却する。 4. フロンサイド粉剤 30～40kg/10a、又はリゾレックス粉剤 10～20kg/10a を土壌へ混和処理する。 | 1. ほ場の多湿、連作が発病を助長させる。 |
| えそ病 (TNV) 微斑モザイク病 (TMMMV) 条斑病 (TSV) (V) | 植 付 前 | 1. 種球根は健全球を厳選する。 2. 発病株は萌芽時から徹底して抜き取り伝染源の除去に努める。 3. 伝搬するオルピディウム菌を防除する。 なお、オルピディウム菌は、土壌中では植物根部残渣中で休眠胞子の形で生存しているため、土壌中の作物根部残渣をできる限り除去する。 4. オルピディウム菌の宿主範囲は広く、雑草にも寄生することから、ほ場内や周辺の雑草防除を徹底する。 | 1. 抜き取り株は、ほ場に放置しないで焼却処分する。 |
| 軟 腐 病 (B) | 生 育 期 間 | 1. 発病株は、抜き取り処分する。 2. 排水を良くする。 3. 窒素質肥料をやりすぎない。 | |
| アブラムシ類 (ウイルス媒介) | 5 月～6 月 | 1. 健全球根を使用する。 2. ウイルス病発病株は抜き取る。 3. マラソン乳剤 2,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. オルトラン粒剤を 10a 当り 3～6 kg 株元散布する。 2. オルトラン水和剤 1,000 倍液を散布する。 | |